

大阪 あちこち

●古市古墳群と埴生野を訪ねて

羽曳野市の名前は、古代の英雄・日本武尊やまとたけるのみことが死後、白鳥となって古市へ飛来し、再び「羽を曳くように埴は生野にゅうのを越えて飛び立った」という白鳥伝説に由来します。市内にはこうした伝承をはじめ数多くの歴史遺産があります。今回はこの埴生野について最近の調査を交えて紹介します。

市内を横断する最古の官道・丹比道たじひみち（後の竹内街道）が埴生野の坂にさしかかる南側には『峰塚公園』があります。公園内の小高い「郷土の森ゾーン」の展望台からは古市古墳群が見渡せ、特に左手奥にあり群の中心である応神陵古墳の大きさには目を見張ります。また、眼下の峯ヶ塚古墳は、整備に伴う発掘調査によって後円部に石室が見つかり、出土した金・銀製のアクセサリーや特殊たちな大刀などの豪華な副葬品から大王級ひそうしゃの被葬者が想定されます。

今では家やビルが建ち並び、古墳群全体は見渡せませんが、古墳群の中に我がまち・羽曳野があることがわかります。

散策道を西に歩くと小口山古墳こぐちやまに着きます。今は小さな入り口が見えるだけですが、古く明治時代末年には「河内軽里の刳り抜き石棺」として考古学界では知られていました。棺を取める施設は横口式石槨と呼ばれ、巨大な凝灰岩ぎょうかいがんを南側の小口から刳り抜き、屋根は家形に整えています。最近の発掘調査の結果、直径14mの



小口山古墳の石槨



塚穴古墳南側の外堤

円墳で、石槨や羨道の構造などから7世紀中頃に築かれたと考えられます。

公園を抜けさらに西側に進むと、宮内庁が聖徳太子の弟・来目皇子墓として指定している塚穴古墳があります。平成17年度の発掘調査では、指定地外の南側に一辺100mにも及ぶ外堤がいていがあったことが判明しました。当時これ程の墓域を持つ古墳は大和の石舞台古墳や同時期の天皇陵に匹敵します。日本書紀には皇子が九州で病死後「埴生山の崗の上」に葬ったと記されており、被葬者が来目皇子である可能性が増しました。



今では、埴生野はすっかり宅地化が進んでいますが、発掘調査がもたらす貴重な歴史遺産の発見が、悠久の歴史を感じさせます。是非、現地でご覧下さい。

▼お問い合わせ先▼

羽曳野市教育委員会生涯学習室社会教育課

TEL 072-958-1111

E-mail shakaikyoiku@city.habikino.osaka.jp